

県外から日野町へ

企業進出・温泉水の活用など



特集 地域の自立
菅福元気邑下巻

行動することが大切

安部達範さんにインタビュー

— 昨年の8月、島根県に本社を持つ、災害復旧などの法面型枠を生産する株式会社フレクシオンフレームが日野町福長に進出しました。

同社代表取締役の安部達範さんは、同工場建設中にゆう出した温泉を活用し、温泉水の販売など積極的に事業を展開。地域の資源を活用し、地域の活性化を目指す安部さんに話を聞きました。



平成14年8月に進出した福長工場

企業進出から2年
注文も多く全国へ出荷

— 昨年、日野町福長に株式会社フレクシオンフレームを進出させ、松江市から日野町に移り住み2年が過ぎました。同会社は、道路、災害復旧などの法面保護に用いる型枠を生産。日本で4社しかない会社で、松江市に本社があります。現在、福長工場は、従業員4人とパート3人で操業。注文も多く全国各地に製品を出荷しています。

都市部の人から見れば
恵まれた自然は魅力
進出地は、交通の便が良いなどの条件に合う地域を探しました。何件か候補地を見て



「温泉で地域が活性化できたら」と安部さん

回りしましたが、その中でも福長は、比較的高速道路に近かったことと、私自身、自然が好きだということもあり、ここに工場を建設しようと決めました。都市部に住む人たちから見れば、この恵まれた自然はとて魅力的です。

偶然的な温泉ゆう出
資源を生かして活性化

工場建設地のボーリング中、偶然に温泉がゆう出しました。関金や三朝温泉と同質で、約29度の温泉が1日約86トンわき出ています。

当初、職員の研修施設として建物を作ったのですが、多くの人から「温泉に入って体調が良くなった」などと喜んでもらったり、湯をくみに来

る人が増えてきたこともあって販売を考えました。昨年7月から温泉水を販売。その数は徐々に増え、半年で県内外から500人以上の固定客ができました。

今後は、もっと温泉の湯を活用できたらと思います。例えば、老人保健施設や病院などへの提供も考えています。温泉によって地域が活性化してくれればうれしいです。

地域の特性を生かした
ものづくりに挑戦

地域の皆さんとも交流が深まり、炭づくりや正月用もちの販売など地域の特性を生かしたものづくりに挑戦しています。また、地元の方に協力していただいて温泉水と